

提出 順番	No. 2	平成26年 2月24日 午前・ <u>午後</u> 2時00分
----------	----------	------------------------------------

平成26年 2月24日

幕別町議会議長 古 川 稔 様

幕別町議会議員 前川 雅志



一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
帯広厚生病院に対する財政支援について	帯広厚生病院は、町民の命を守る上で大変重要な役割を持った病院だと理解している。更に、救命救急センターや小児科、周産期医療が不採算と言われながらも全体で毎年10億円以上の黒字決算となる優良企業であることも理解している。しかし、新築移転を急ぐ理由や市町村や農協が、多額な負担をする理由が理解出来ない。また、毎年10億円以上の黒字であるにもかかわらず、95%を借入で建て替える事業計画は全く理解出来ない。 報道によると4月下旬に国とのヒアリングの前に市と町村会の見解をまとめたいということですので以下について伺う。 ① これまでの報道によると、十勝町村会と帯広市と帯広厚生病院では、それぞれ見解が違おうようだが、どのような協議がなされたのか。 ② 特別交付税で運営費を負担する場合の負担額。また、いつからいつまでの負担か。 ③ 特別交付税で全額賄うようだが、十勝に配分される特別交付税の総額は増額される見通しはあるのか。
幕別町に大学設置を	少子高齢化と言われ久しいが、幕別町に生まれた子供の数は、平成25年は185人である。この子供たちが、将来この町に住み続けてくれれば極端な少子高齢化とはならないはずである。住むことの出来ない要因の一つに教育問題が挙げられる。 町内の小中学校は、教科も部活動も頑張り、成果を上

幕別町の高校教育をどう考えるか	げている。今後も日本と言わず世界で活躍する人材作りに力を注いでいただきたいと思います。しかし、中にはこの町で暮らしたいと思っている子供も少なくない。その為には、高等教育のあり方を考えなくてはならない。 十勝大学設置促進期成会では、帯広市が基金を積み議論はされているようですが中々前に進んでいない。どのような要因で議論が進まないのか伺う。 昭和54年に琉球大学医学部を最後に医科の新設はない。震災以降、東北に医科大学を新設する動きがあり、閉ざされた扉が開かれようとしている。東北6県にはすでに医科を持つ大学が6大学ある。北海道には、道央を中心に3大学しかない。人口10万人当たりの医師数は、全国平均219人に対し、十勝160.9人、釧路160.1人、北網146.8人、根室94.3人（平成22年厚生労働省）であり医師の確保が課題となっている。道東に医科大学があれば解消出来る問題ではないか。 そこで、東北の新設と併せて、道東に誘致する動きを十勝町村会・十勝活性化期成会・十勝大学設置促進期成会等に投げかけながら、幕別町を中心に頑張ってみてはいかがでしょうか。 幕別高校は昨年ついに一問口になりました。新年度の入学者数は確定していませんが何とか二問口を確保出来ればと願っている。サテライトの開催、進路決定100%等、幕別高校の頑張りは高く評価しますが、今後の児童・生徒数の推移を見ると厳しさは変わりません。 幕別高校の今年の卒業生は、12人が幕別町内に就職を決め、江陵高校は10人程度が幕別町内に就職を予定している。町内企業と同窓会の理解と協力、両校の指導に敬意を表します。このように幕別町の人材育成や定住に大きく貢献しているのが、幕別高校と江陵高校であり、この町に無くてはならない高校である。 今後、幕別町内にある二つの高校がどうあるべきと考えているか伺う。
-----------------	---

（注）質問の要旨は、具体的に記載すること。